

事業所名	みんなの家そよかぜ
日付	平成19年3月8日
評価機関名	特定非営利活動法人 高齢者・障害者生活支援センター
評価調査員	① 介護支援専門員・認知症ケア専門士 ② 介護支援専門員・介護福祉士
自主評価結果を見る(事業所の自主評価結果にリンクします)	
評価項目内容を見る(岡山県の定めた評価項目へリンクします)	
事業者のコメントを見る (評価結果に対する事業者の改善状況についてコメントがあります)	

講評
全体を通して(特に良いと思われる点など) ・ 田園地帯で日照や環境がよく、春には各部屋から桜の花見ができ、夏には花火大会が見学できる大変良い立地条件の場所に有ります。又、近くに小学校・コンビニエンスストア・幼稚園があり子どもたちの元気な声が聞こえて来る穏やかな環境と、経営母体の医療機関が隣接したグループホームで、各々のユニットの特色を持ち、知識と経験豊富な管理者とスタッフの協力の下で、レベルの高い介護が行われている。 ・幼稚園、小学校との交流や、月1回の外出行事(3月は高松城址予定)を実施している。 ・家族との交流も大変よくできており、家族の訪問も頻繁で近くの病院に受診に来たついでに、入所されている友達の面会も度々あり、当日も見受けられました。 ・医療法人経営の母体との連携が密にとれており、週1回(月曜日)の全体朝礼が行われている。管理者が、それぞれの事業所やグループホームに伝達が行われている。又、グループホームにおいても日常の出来事や・緊急時等の申し送りが確実にできている。(赤字の色分け)を行い、休んだ人にも確実に情報伝達がされている。又、日常的医療も迅速な対応ができ、緊急時や看取りの対応ができている。 ・スタッフ全員が自分が入りたいと思えるグループホームづくりに取り組んでいる 特に改善の余地があると思われる点 特別にありません。

Ⅰ 運営理念			
番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か。		
	・各々のユニットによる明るく、楽しく、和やかな行事や散歩、地域のイベント、学区への回覧や草刈も参加しています。また、「そよかぜの歌」もできています。 ・いつも八石台の心の友として、家族、介護職員の信頼関係により、みんな穏やかに暮らせるグループホームを目指して支援しています。また、『地域に根ざしたグループホーム作り』『自分の入りたいグループホーム作り』を実施するために、毎月の目標を立て(3月の目標は「思いやりと笑顔で丁寧な対応を心掛けるよう」)、入居者とともに全スタッフが努力されています。 ・サービスの質の向上に向けて、研修には積極的に参加し、定期的会議やミーティングにおいて研修報告を行うことによりを互いに認知症の理解や関わり方についてホーム全体でのレベルアップに力を入れています。 ・職員間の連帯と資質の向上に努力されています。		

Ⅱ 生活空間づくり			
番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間づくり	○	
3	入居者一人ひとりにあわせた居室の環境づくり	○	
4	建物の外周や空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か。		
	1F 生活空間は顔馴染みの入居者同士が自然に会話ができる、落ち着いた生活支援を目指している。 2F テレビの前にはゆったりとしたソファが置かれ、ゆとりのある生活空間や場所造りをしている。 ・居室には馴染みの家具を持ち込むことができ落ち着く事のできるような場づくりに取り組んでいる。 ・グループホーム生活が長い方々には、家族との交流が途絶えないような環境づくりに取り組んでいる。		

Ⅲ ケアサービス			
番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人で行えることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

Ⅳ ケアサービス(つづき)			
番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人の力と経験の尊重やプライバシー保護の為に取り組んでいるものは何か。		
	・個々の生活歴、職歴また、「できること、してほしくないこと」を把握し、本人の意見を尊重しながら身体機能の低下を防止できるように、日常生活の中で見守りや声かけの支援が行われています。 ・個人情報に関わる書類は、本人、家族の同意を得ながら進めており、本人、家族の同意のもと「いずみ新聞」を発行しています。プライバシーの保護にも充分取り組んでいる姿が窺えます。 ・面会カードも個人専用に使われています。		

Ⅳ 運営体制			
番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
33	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
34	地域との連携と交流促進	○	
35	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
	サービスの質の向上に向けて、研修には積極的に参加し、定期的会議やミーティングにおいて研修報告を行うことによりを互いに認知症の理解や関わり方についてホーム全体でのレベルアップに力を入れています。 母体法人においても講師を招いて研修会を行い資質や技術の向上に努めています。 国家試験前には有資格者が試験対策の勉強会を行うなど、職員の連帯や資質の向上の取り組みができています。 地域推進会議も定期的に行われ、意見の反映や自分が入りたいホーム作りに努力されています。		